

消化器内科この一年

消化器内科医長 齊藤裕樹

平成15年4月からの消化器内科のスタッフの入れ代わりは、例年になく激しかったと言える。その中でも「たに内科クリニック」の12月の開院については、私が赴任してまもなく啞然とした出来事であった。谷先生には医長として、もっとしばらく勤務して頂けるものと思っていたので、大変残念なことであった。4年7カ月の消化器内科医長としての勤務を大きな事故を起こさず、また学会や執筆活動も含めマメにこなしてこられたことについて大変敬服する。当院に近い場所での開院であるため、今後も我々消化器内科スタッフへの御助言、御指導を賜りたい。千坂先生は今のスタッフの中で、当院での勤務期間が一番長いこともあり、頼りとするところである。浅井先生は平成15年10月より上林先生の後任として赴任された。この地域における糖尿病などの代謝疾患ばかりでなく、消化器疾患も診てもらわざるを得ない状況にあるため、今後も協力を願いたい。小林先生は私と同じ平成15年4月に赴任している。抱えてもらっているのは、ほとんどが消化器疾患の患者である。大変申し訳ないが、引き続き診て頂きたい。坂上先生は入局して半年経った平成15年10月に赴任している。心身共に負担の大きい仕事内容であると思われるが、めげずにどん欲に研修を

積んでいくことを期待する。他今年度当科には片野先生（～H15.7）、上林先生（H15.4～9）、山北先生（～H15.7）が勤務されていた。

旭川医大第二内科自体も牧野教授の退官、及び羽田教授の就任と大きく変動のあった年であった。このことにより当院の消化器内科がどのように変化するのか、現時点では全く見当がつかないが、動向を見守りつつ対応して行きたいと思う。

診療における目標としては、正直なところ谷先生の開業による影響は大きいと言えるが、何とか現状を維持して、大きな事故を起こさずに仕事を進められたらと思う。

学術的な面では、今までは谷先生が中心に精力的に行ってきており、それに我々が依存してきた状況であったと言える。現在の診療業務を終えた後のもう一仕事と考えると、大変厳しい感があるが、地味ながら着実に業績をあげていきたい。

最後に様々な院内会議に出席していると消化器内科が関わっている問題が大変多いことがよく解った。キャラクターとして前任の医長を真似ることができない面もあるが、私なりに他科の先生方やパラメディカルの方々との連携を深めて、問題の改善に努めたいと考えている。

